



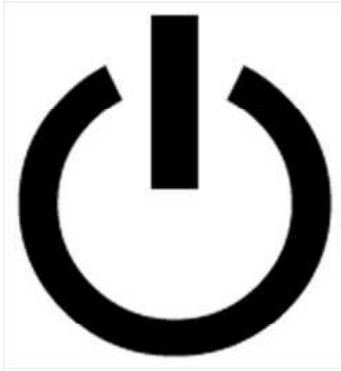
# カレッジ情報2015

2015. 9. 1 (火) 9月号

発行: 秋田県生涯学習センター  
tel: 018-865-1175



## パソコン入門「ほぼ初めてコース」(K3・4・5)を開催しました



<これは、何のマーク?>

当センター職員が講師となり、いずれも同じ内容で、パソコン入門「ほぼ初めてコース」を7月1日・8日・15日(各水曜日)に開催しました。本講座は、これからパソコンを買ってみようか、あるいはパソコンを買ったばかり…といった「超初心者」の方々を対象にしたもので、パソコンにはこういった形のものがあるか(タワー型・デスクトップ型・ノートブック型などのそれぞれの違い)ということから始め、電源マークなどの説明、電源の入れ方・切り方、画面に表示される各部の名称(デスクトップ画面やウィンドウズ画面での各部名称)、マウスの使い方(シングルクリック・ダブルクリック・ドラッグ、右ボタンと左ボタンの違い)、ローマ字変換による日本語入力の基礎、インターネットでの検索の仕方(複数語入力による絞り込み検索)と

いったことを行ないました。

パソコンは、一般家電のようにスイッチを入れるだけで何もかもやってくれるわけではありません。使いこなすには、知識と技量(スキル)が必要です。ですから、いろんな入門書も読まなければなりません。「パソコン教室に通っても、恥ずかしくて聞けないことがある」とのお話もよく耳にします。「基礎としての基礎」を学んだ1日でした。

## 「学ぶためのまなび方 Vol.3」(E1~8)が始まります!

9月から『学ぶためのまなび方 Vol.3』(全8回)が始まります。昨年度大好評で“アンコール”の要望が寄せられ再び講座を担当してくださる先生もいらっしゃいます。今年度新たにお問い合わせいただいた農学博士の大沼先生と、理学博士の瀬々先生は、いわゆる「博士号教員」で、県内の小・中・高校などに招かれて多くの出前授業を担当されています。ご自分の専門分野を分かりやすく解説して下さることでしよう。また、いま話題の小学校での外国語活動も体験できます。英語を知らない小学生になったつもりで、皆さん自らが楽しんで参加できる講座となる予定です。



<昨年度、国語を担当いただいた  
佐々木久春氏は、今年度のE1に登場>

### <前半4回のラインナップ!!>

|    |          |    |                                                           |
|----|----------|----|-----------------------------------------------------------|
| E1 | 9/5(土)   | 国語 | 「続・江戸期から明治への文学」<br>講師: 秋田大学・秋田県立大学名誉教授 佐々木久春氏             |
| E2 | 9/26(土)  | 数学 | 「脳が活性化する面白い数学2」<br>講師: 秋田県立秋田南高等学校教諭 中村東氏                 |
| E3 | 10/3(土)  | 家庭 | 「食の安全・食卓の安心」<br>講師: 秋田県立大曲農業高等学校教諭 大沼克彦氏<br>~博士号教員講座~     |
| E4 | 10/24(土) | 理科 | 「未来のものづくりを考える」<br>講師: 秋田県立横手清陵学院高等学校教諭 瀬々将吏氏<br>~博士号教員講座~ |

※講座の時間はいずれも10:00~11:30です。詳細は、チラシやホームページをご覧ください。

カレッジ情報のバックナンバーは、秋田県生涯学習センターWebサイト  
<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>からダウンロードすることができます。

## 解説!アーカイブス (P1) 秋田を走った鉄道馬車



講師：秋田県公文書館 副主幹 柴田 知彰 氏

「(パワーポイントの画面に示した) この写真は、新橋にあった鉄道馬車の写真です。土崎港町上酒田町と秋田市大工町六堂辻の5.5kmを結ぶ鉄道馬車の写真は、これまでのところ見つかっておりません。見つけたら、大発見です」との夢のある話から講座は始まりました。「秋田馬車鉄道会社は、明治21年(1888)3月に敷設願書を県知事に提出したところから始まります。そして翌22年(1889)7月には営業運転に至ります。計画当初は、奥羽線建設も未定の時期で、『秋田県内を結ぶことも視野に入れた鉄道』として計画されていました」との言葉は驚きでした。話は、幻の「大館馬車軌道株式会社」へと移ります。「大館駅は市街地(旧城下町)からおよそ1.96km離れた位置に作られ、大館駅と市街地を結ぶ鉄道として計画されました。しかし、様々な理由で免許失効となり、幻に終わります。ひとかたまりの関係書類が県公文書館に残されており、誰でもその経緯を知ることができます」との言葉に、公文書館は歴史の宝庫であることを再認識しました。

## 日常生活に役立つアラカルトVol.2 (F7)

### 英語は日常生活において欠かせないもの?!

講師：秋田国際教養大学 助教 遠藤 秀弘 氏

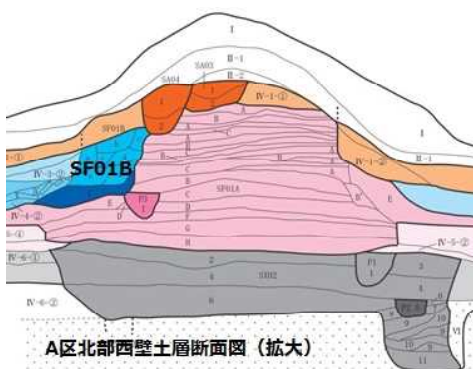
「日本語の表記の仕方はいくつあるでしょう。昔ならば3つと言えたでしょうが、現代は4つです。ひらがな、カタカナ、漢字、そして4番目が日常語化した英語です。4番目に入り込んだことで、英語は大事になってきています」「雑誌や音楽CDのタイトル、クリアランスセールといった広告など、ごく自然に英語が使われ、日常語として身近なものとなっています」「英語は様々な理由から国際共通語になっています。世界レベルで見れば、英語を母国語としない人々の方が多数派です。英語を母国語としない人々同士でも、国際共通語である英語でコミュニケーションをとることができるのです」との講師の言葉はとても印象的でした。英語での自己紹介ゲームを通じて、「テキスト通りでもいいからとにかく話し、聞き、使い、体験してみる。理解は後からついてくる」そんなことを考えさせられました。



＜「英語での自己紹介ゲーム」の様子＞

## 秋田市探訪vol.4 (C4) 史跡秋田城跡について

講師：秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所 神田 和彦 氏



A区北部西壁土層断面図(拡大)

最北の古代城柵官衙として秋田城とはどういう施設であったのか、最新の発掘成果を交えてお話しいただきました。最も印象的だったのは、「復元した築地塀は、雪の湿気によって下の方が所々で崩れてきています。周囲の方々から直せとお電話をいただきます。古代の人々も崩れたところを何度も修復したようで、その様子が発掘結果からも分かります(左図のSF01Bの部分)。築地塀を復元したことから、偶然ですが、修復に至った理由も分かりました」というお話でした。発掘だけではよく分からないことも、復元というところからいろいろなことを知ることができる良い一例ということでしょう。